



## ESDの旬は、小学4年生

宇部市立恩田小学校教諭 三好 保雄

ESD（持続可能な社会の創り手を育む教育）の大切さが叫ばれて久しい。大人社会の中では、効果が目に見えて出ているとはいえないように思う。

子どもの時から育てて行かなくてはならない。私は、小学校4年生の担任をさせていただいているが、感性に知性がうまく絡みだす4年生のころのESDは効果的である。詳しくは、宇部フロンティア大学の立川先生、三島先生が私の勤務校であった藤山小学校の児童に調査された論文をご覧ください。

今回は、恩田小での我がクラスで行った「不法投棄を考える授業」を紹介する。4年生は、社会科で「ごみの処理と利用」の学習を12時間程度行う。その中で「不法投棄を考える」授業を行った。

2枚の写真を見せて問う。「感想をどうぞ。」

ひどい。山にごみが捨ててある。テレビが捨ててある。冷蔵庫も捨ててあるよ・・・子ども達の感性に引っかかる。批判的な発言が続く。

「どうして、山に捨てる人がいるのでしょうか。」

決められた捨て方は、めんどくさがる人がいるのではないかと。テレビや冷蔵庫を捨てるのにはリサイクル料金が掛かるからではないかといった意見が出てくる。

授業後、家に帰って家電製品のリサイクル料金を調べ、リストにしていく子が出てくる。リサイクル料金が高すぎるのではないかと考える子も出てくる。外国の例も追究させると、学習は深まって行く。

知性と感性をもとにして、不法投棄やポイ捨てをなくしたいものである。



(写真：宇部市HP  
こども学習資料室  
よりダウンロード  
して使用)

## 小郡図書館友の会 鉢の子

事務局 中原 みどり

私たちは小郡図書館リニューアルを機に2009年11月に再結成した市民団体です。小郡図書館が地域住民の文化・情報・交流の拠点として発展することを願い、同館をサポートしながら年間を通してイベントを企画開催しています。主なものとして、地域のお宝を発掘するふるさと講座や演奏会、子どもに人気の科学講座、研究者をお招きした文学講座、多文化に触れる図書館講座、戦争と平和企画、その他ブックカフェ、ビブリオバトルなど多岐にわたります。

このようにさまざまな分野の講座を開くことができるのは、図書館が必要とされる資料を誰にでも届けることを使命としているからではないでしょうか。「多くの住民に利用され街づくりや人づくりに役に立つことで税金が還元される機関」ともいわれるように、私たちが安心して暮らしていくために、また将来に希望を持つことができるよう知恵や時間を得る場が図書館だと信じて活動しています。

最近嬉しいことがありました。小郡の元国鉄マンの有志の方々が、小郡図書館の利用団体として登録されました。ご高齢のメンバーも多いのですが、集められた膨大

な資料を整理したり発表の場とされるそうです。鉢の子の活動をみて、自分たちも今からでもやってみよう、という気になったとおっしゃっていました。

また、山口県の火山講座を開催した際に、受講者からの要望が元となり阿武火山群見学ツアーが実現したこともありました。最近では手話講座の参加者が自ら手話グループを作り小郡で小さな手話ムーブメントが起こっています。まさしく街づくり、人づくりです。

イベント開催の他には、図書館職員と懇談したり、山口市の図書館協議会に委員として参加したり、共により良い図書館運営を担っています。

年明けには小郡の偉人葛原猪平の講談会を企画して忙しくしています。また、いろいろな団体からもコラボのお話をいただくようになりました。8月は小郡みんな食堂主催の「こどもSDGsカフェ」に協力します。

現在、共に活動する仲間を募集しています。

小郡図書館から飛び出して活動していますので、鉢の子を見かけられましたらどうぞお声かけください。お待ちしております。



## 宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 J R宇部線：「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス：「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し（近隣の有料駐車場等をご利用ください）

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com

開館時間 9時～17時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>

休館日 毎週土・日曜日、祝日、年末年始



HomePage



facebook



twitter



指定管理者 NPO法人うべ環境コミュニティ

## 山口県の鉄道の魅力と観光列車

大学生協 中国・四国事業連合 萩原 知昌

この6月より9年間勤務しました山口大学工学部生協を離れ、大阪での勤務となりました。前任地の下関も含めると山口県には通算14年在住していたこととなります。

宇部市在住時は時間を見つけては宇部線、小野田線をはじめ県内の鉄道に乗車しました。1日朝夕3本しか電車が来ない鉄道ファンの聖地となっている小野田線・本山支線の長門本山駅、長い歴史を誇る宇部駅の駅うどん・そばなど、思い出は尽きません。

さて、今回は鉄道の中でも特に、県内の観光列車の魅力を取り上げたいと思います。JRはもちろん、第3セクターの錦川鉄道まで含めると3種類の観光列車が走っています。新山口～津和野間の「SLやまぐち号」（2021年度は当面の間ディーゼル機関車が牽引するDLやまぐち号として運行）、新下関～（下関・長門市経由）東萩間の「〇〇のはなし」（まるまるのはなし、以上JR西日本）。岩国～錦町の錦川鉄道の「利き酒列車」に代表される各種観光列車です。これらに共通する特徴は、地方の鉄道路線を維持するために、県内や県外からの観光客を呼び込んで鉄道を利用してもらい、鉄道の維持や地域の宿泊や飲食をはじめとする経済の活性化につなげていこうというものです。

数ある観光列車の中でも私が特にお勧めしたいのが

「〇〇のはなし」です。車両は「洋風車」と「和風車」の2両編成で和風車には車内の一部に畳が使用されています。2両とも海に面する日本海側を大型の窓に改造して景色が堪能できるようになっています。途中、景色の良いビュースポット3カ所では1分間ほど停車し、写真撮影などをしている時間が取られています。

コバルトブルーの日本海は、往路と復路で、そして夏と冬でも違った景色を見せてくれます。また、主要駅では駅員さんや地元の皆さんによるお出迎えもあります。また、復路の仙崎駅では30分ほどの停車時間が取られており、駅から徒歩およそ5分の所にある道の駅「センザキッチン」にて地元の名産品などを買うことも出来ます。

こちらの記事をご覧いただいている方は山口県内在住の方が多くと拝察いたしますが、県内の魅力を再発見するという視点でも、ぜひ多くの観光列車を体験いただければと思います。最後にコロナ禍で外出や観光などがはばかれる日々が続いていますが、早く収束して通常の生活が出来る日々が来ることを願ってやみません。



第1回環境サロン「専門家と一緒に、ごみと水について考える」のご案内

日時:8月24日(火) 18:00~20:00 場所:上宇部ふれあいセンター大会議室

話題提供:宇部市の重点課題とごみ問題の難しさ(上田康次郎廃棄物対策課長)  
宇部市のとり組みと水の大切さについて(中村 篤 上下水道局長)

参加料:200円資料代として 問合せ:090-5268-5971

うべ環境コミュニティー会員 コラム



### 持続可能な河川工法

一般社団法人 鋳田籠工法協会 松村 憲吾

近年は、気候変動などで局地的な豪雨が多くなっており、毎年のように激甚災害級の被害が起きています。そして復旧には被災箇所が多いので人手や材料が不足したり、さらに工事が3、4年と長期にわたると、復旧する前にまた災害を受けることもあります。

また、復旧を急ぐあまり設計も短納期になり、設計しやすいコンクリート工法に集中し、材料不足の原因にもなっています。工事の段階になると、コンクリートブロックが現場に運び込めない、設置には仮設道路を用意しなければならないなどの問題も後に発生しています。

活動柄、漁協の組合長とお話しする機会があり、河川環境について聞いてみると…

生物の棲む場所がなくなった、コンクリートを使いすぎ、河川環境は大きく変わったなどとよくお聞きします。

中には、生物に配慮して治水工事を行うと自然素材を用いて行う伝統的河川工法が望ましいが、自然素材だと数年で朽ちてしまい、何度も同じ工事が必要になってくるという方もおられます。

我々の工法は鋳鉄製のパネルを同素材のクサビで連結し

た枠体の中に碎石や現地発生石を投入してブロック状の構造物を作ることが出来ます。パネルの組み方により、根固・護床工や護岸工、落差工、水制工など色々な用途の河川工事に使用されています。

枠体の組立てを人力で行った後、バックホウ等の機械で中詰石を投入します。枠体が強固なので、石の空隙を保ちながら、石をしっかりと囲むことが出来ます。水位により、水替え工事なしで施工ができ、大幅な工期の短縮もできるので、工事による生物への影響や仮設に掛かる費用や人件費を軽減することが出来ます。

生物の生息空間を作りながら、長持ちして、使い古せばリサイクルできる治水工事はこれからの持続可能な社会の実現には必要です。鋳鉄という素材がもっと多くの方に知られ、使われるようになれば長寿命化が図れるだけでなく、資源循環する持続可能な河川土木工事が実現できます。



石と鋳鉄の根固工